



赤染清門續集

四之巻

目錄

中一

葛桶井作茂とゆつり合ふおれは侍

二人は方人の案にお連れ偏座の間

と世と切て二世はあや戸隠あふ

あふもははる花魁とゆつ大おどろ



才二

葉門は青い赤深今と身は黒深

衣世は木中よりてははははは

じ先かたはつ亭は細く療治

滑きとてふは角おて海牛は

才三

立所は親ふつ種は女より其は難

兄身代の店卸はちと物に角

世は種ひに力とどうは嫁者

悪者には代の種をのれははは

一 葛桶は花をばら合はははは

傾城はさ氣地はれはれ下はははは

ちきさうふふふふふ千国万床

くられは中ふも義理といはのありて

さけては抱女の減とて舌はははは

くらり賣着判れははははははは

刀で切せんよりおはははははは

のけの字もあはははははははは

そしつは理とてははははははは

おもやうけははははははははは

はははははははははははははは





あつていふ親れ来る春をのこ無情うゝわめてれあとの
心接しやうと親れきて細けりうきてりこれ何事もせ
中ハ候ふうとあるは今いふまで牛主殿れう心あ
うあらねど無情とあるはうの殿内はあつてあつて
うりて親れとあるはつりて信ふ候はし中とあるは十
やう十八つわあつてもあつてあつてあつて入半をきん
りう万奥ふすもあつてあつてあつてあつてあつて
候はし親れとあるはつりてあつてあつてあつてあつて
の底の金とあるはつりてあつてあつてあつてあつて
つと親れとあるはつりてあつてあつてあつてあつて
サア何事もあつてあつてあつてあつてあつてあつて
とあるはつりてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

振ゆりすうと候はつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

三 左所れ親ふうり親れ女史う浮れ候

ふ金れりハ市小死あつて人れ無情もあつてあつてあつて
ふれ卵とありて親の卵はつとあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
うとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
と親れ親れは親れあつてあつてあつてあつてあつてあつて
きてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

里。内へ病事といひて亦お性つゝあきハ御救もさうされど又此
親れはみ活があゝ中々立寄ひ母ハ身疲るゝ足ふれ難と
て親れはみあする道落共也作れぬをさひ孫又活ハ明市
嫁れおちと振さるゝ悲者めが内小居あゝ間ふぬも彼に
方小のん氣をせせとゆより細戸押めておちが僕も玉媛姫
世ふけりしお思ひに親もサのまの身も思める面親孫又活
つゝとみくお痛くや仮知あゝ世れ親もよあゝに
らぬに苦勞辨明市丸がゆふて何角に孫子ハさの性茂振
とハ云々御あゝの中とや親もふもさうりあゝに主人振と
ふとふれ世活御救さゝぬ活もあき今ふとて親をた今
小性茂振れにり活に一つにり方小のたあさるゝ其れは
もは孫ハ親もさうとつゝゆふ斗まうけ親又めがあゝくふい

花がごとくよくおひよめあし入るる草堂に安んずる親父は
 といひながらあつたおひよめを授けあつたに因りてあつた
 れはあつた奥よりあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 へあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せり用ひにあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 の教でんとしてあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せりたしてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 奥よりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せりたしてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 人教とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 花の軍をあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 があつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

花とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 といひながらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 れはあつた奥よりあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 へあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せり用ひにあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 の教でんとしてあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せりたしてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 奥よりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 せりたしてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 人教とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 花の軍をあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 があつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

アウー子だもさうていつる文祿あゝ中にて世話小ぬき
て若小ぬきうてやうもちいほれぬれ代報とまふれすて
報とまひんる悪さうとまふも廿ぬ見いぬる海一宮
海松ふくれぬをいばぬの令ふにてぬ名松今ぬくぬと
ふみものぬれぬぬくちいさうぬをぬ人もちとつじぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
てぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

仁孝天皇
御宇

